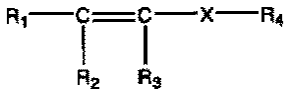
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成17年10月6日(2005.10.6)

【公開番号】特開2002-20234(P2002-20234A)
【公開日】平成14年1月23日(2002.1.23)
【出願番号】特願2000-201737(P2000-201737)
【国際特許分類第７版】
　Ａ６１Ｋ　7/02
【ＦＩ】
　Ａ６１Ｋ　7/02　　Ｐ

【手続補正書】
【提出日】平成17年5月25日(2005.5.25)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
　架橋性モノマーと、下記一般式（Ｉ）で表される化合物から選ばれる１種乃至は２種以上のモノマーとを、構成モノマーとして含有する架橋型ポリマーでコーティングされた粉体を含有することを特徴とする、化粧料組成物。
【化１】



一般式（Ｉ）
（但し、式中Ｒ１、Ｒ２及びＲ３はそれぞれ独立に、水素原子又は炭素数１～４のアルキル基を表し、Ｘはオキシメチレン基、カルボニルオキシメチレン基又はオキシカルボニル基を表し、Ｒ４は炭素数２～４の脂肪族炭化水素基を表す。）
【請求項２】
　前記一般式（Ｉ）で表される化合物が、アクリル酸の炭素数３～５のアルキルエステル又はメタクリル酸の炭素数３～５のアルキルエステルであることを特徴とする、請求項１に記載の化粧料組成物。
【請求項３】
　前記一般式（Ｉ）で表される化合物から選ばれる１種乃至は２種以上のモノマーの含有量が、架橋型ポリマー全量に対して、６０～８０重量％であることを特徴とする、請求項１又は２に記載の化粧料組成物。
【請求項４】
　前記架橋性モノマーが、アルキレングリコールとアクリル酸又はメタクリル酸とのジエステル、ジビニル化合物及びアルキルジエン化合物から選ばれる１種乃至は２種以上であることを特徴とする、請求項１～３何れか一項に記載の化粧料組成物。
【請求項５】
　前記構成モノマーにおける前記架橋性モノマーの含有率が、架橋型ポリマー全量に対して、０．０１～１重量％であることを特徴とする、請求項１～４何れか一項に記載の化粧料組成物。
【請求項６】
　油脂成分の包含用であることを特徴とする、請求項１～５何れか一項に記載の化粧料組

成物。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００４】
後記一般式（Ｉ）に示される化合物を構成モノマーとした架橋型ポリマーでコーティングされた粉体を含有する組成物については全く知られていない。又、化粧料に於いて、この様な架橋型ポリマーでコーティングされた粉体を含有する組成物が、化粧料の持ちを向上させることも期待されていない。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
【課題の解決手段】
本発明者らは、この様な状況に鑑みて、皮脂の中の化粧崩れや刺激を発現する成分を吸収するための新たな素材を含有する組成物を求めて、鋭意研究努力を重ねた結果、一般式（Ｉ）で表される化合物を構成モノマーとして含有する架橋型ポリマーでコーティングされた粉体を含有する組成物にその様な特性を見いだし、発明を完成させるに至った。即ち、本発明は次に示す技術に関するものである。
（１）架橋性モノマーと、下記一般式（Ｉ）で表される化合物から選ばれる１種乃至は２種以上のモノマーとを、構成モノマーとして含有する架橋型ポリマーでコーティングされた粉体を含有することを特徴とする、化粧料組成物。
（２）前記一般式（Ｉ）で表される化合物が、アクリル酸の炭素数３～５のアルキルエステル又はメタクリル酸の炭素数３～５のアルキルエステルであることを特徴とする、（１）に記載の化粧料組成物。
（３）前記一般式（Ｉ）で表される化合物から選ばれる１種乃至は２種以上のモノマーの含有量が、架橋型ポリマー全量に対して、６０～８０重量％であることを特徴とする、（１）又は（２）に記載の化粧料組成物。
（４）前記架橋性モノマーが、アルキレングリコールとアクリル酸又はメタクリル酸とのジエステル、ジビニル化合物及びアルキルジエン化合物から選ばれる１種乃至は２種以上であることを特徴とする、（１）～（３）何れか一項に記載の化粧料組成物。
（５）前記構成モノマーにおける前記架橋性モノマーの含有率が、架橋型ポリマー全量に対して、０．０１～１重量％であることを特徴とする、（１）～（４）何れか一項に記載の化粧料組成物。
（６）油脂成分の包含用であることを特徴とする、（１）～（５）何れか一項に記載の化粧料組成物。
以下に、本発明について実施の形態を中心に詳細に説明をする。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１６】
＜試験例＞
製造例１、２の本発明の架橋型ポリマーでコーティングされた粉体１、２と参考例の比較架橋型ポリマーでコーティングされた粉体とを用いて、刺激発現皮脂成分に対する作用

を検討した。即ち、架橋型ポリマーでコーティングされた粉体１，２と流動パラフィンとを３：２の重量比で混練りし、ペーストを得た。このペースト０．０５ｇをハートレー系白色種モルモット１群５匹の背部の２ｃｍ×２ｃｍの部位に塗布し、最少紅斑ドーズの１／２の光量の紫外線を照射し、翌日に皮膚反応をドレーズの基準に従って判定した。ドレーズの基準とは、＋＋：浮腫を伴う反応、＋：明らかな紅斑を伴う反応、±：微弱な紅斑を伴う反応、－：無反応であった。結果を出現例数として表１に示す。これより、本発明の架橋型ポリマーでコーティングされた粉体１，２の投与部位は炎症反応が抑えられていることがわかる。これは、光が皮脂に照射されることによって生じる刺激発現成分を本発明の架橋型ポリマーでコーティングされた粉体１，２が吸収しているためである。この様な作用は特定の側鎖を有することにより発現されることもわかる。

【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１９】
（５）本発明の架橋性ポリマーでコーティングされた粉体を含有する組成物

本発明の架橋性ポリマーでコーティングされた粉体を含有する組成物は、１）架橋型ポリマーとして、上記一般式（Ｉ）に表される化合物から選ばれる１種乃至は２種以上を構成モノマーを含有する、２）架橋型ポリマーとして、上記一般式（Ｉ）に表される化合物以外に、架橋性モノマーを構成モノマーとして含有する、３）架橋型ポリマーとして、上記の一般式（Ｉ）に表される化合物及び架橋性構成モノマー以外に、通常ポリマーの世界で知られている任意のモノマーを構成モノマーとして含有する高分子構造を有する高分子を含有することを特徴とする。本発明の組成物として、表面の処理に使用されるものが好適であり、処理される表面としては、皮膚表面、爪表面、毛髪表面、線維表面、ガラス表面乃至は金属表面が好適に例示できる。即ち本発明の組成物としては、具体的には、皮膚外用剤、繊維処理剤、ペイントなどが好適に例示でき、中でも皮膚外用剤に適用するのが特に好ましい。皮膚外用剤としては、例えば、化粧料、皮膚外用医薬、外用殺菌剤などが例示でき、これらの内では、化粧料が特に好ましい。これは、本発明の必須成分である高分子の機能が、化粧料の求めている品質と良く一致するからである。ここで、化粧料とは、一般的に言われている化粧料であり、例えば、クリーム、乳液、化粧水、パック等の肌の手入れを旨とする基礎化粧料、アンダーメークアップ、ファンデーション、リップカラー、チークカラー等の装いの機能を旨とするメークアップ化粧料、ヘアトニック、ヘアリキッド、ヘアリキッド、ヘアクリーム等の毛髪の手入れと保全を旨とする毛髪化粧料、シャンプー、リンス、石鹸等の洗浄化粧料等が例示できる。本発明の化粧料ではこれらの何れもが適用可能であり、基礎化粧料であれば、安全性の高い優れた皮膚保護効果を発現し、メークアップ化粧料であれば、化粧のりが良く、持ちも良いメークアップ効果を発現し、毛髪化粧料であれば、優れた毛髪述べた付きの抑制作用などの優れた機能を発現する。